

小学校図画工作

指導のポイント

児童一人一人が、自分の感覚や行為を通して形や色などを理解することと、自分のイメージをもつことに配慮しながら、表現と鑑賞を関連させた指導をすることが大切です。

評価のポイント

一人一人の表現が目の前で展開されていくため、観察は最も重要な評価方法です。児童が「何を感じているのか」「何を考えているのか」などは、児童の動きや視線、会話などから捉えていくことが大切です。

1 図画工作における資質・能力と内容のまとまりの関係

	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識	技能		
造形遊び	[共通事項]ア	「A表現」(2)ア	「A表現」(1)ア、[共通事項]イ	—
絵や立体、工作	[共通事項]ア	「A表現」(2)イ	「A表現」(1)イ、[共通事項]イ	—
鑑賞	[共通事項]ア	—	「B鑑賞」(1)ア、[共通事項]イ	—

2 観点別評価のポイント

知識・技能

知識・技能(知識)：表現及び鑑賞の活動を通して、自分の感覚や行為を通して形や色などの造形的な特徴を理解することについて評価します。観察や児童との対話から学習の状況を捉えることが考えられます。

知識・技能(技能)：材料や用具を適切に扱い、前年度までの経験を生かし、手や体全体を十分に働かせて、表し方を工夫していることについて評価します。材料や用具を扱う児童の具体的な様子を捉えたり、作品の全体の印象だけでなく部分にも着目し、材料や用具をどのように扱っているかを具体的に捉えたりすることが考えられます。

思考・判断・表現

思考・判断・表現(発想や構想)：感じたり想像したりして表したいことを見付けている姿を主に観察や対話、作品から把握します。学習活動に取り組む中では多様な姿が現れることになるため、児童の表したいことを見付けるきっかけの傾向を事前に想定しておくことで、学習状況を判断しやすいということが考えられます。

思考・判断・表現(鑑賞)：造形的な見方・考え方を働かせて、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的な良さや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりしていることについて評価します。

主体的に学習に取り組む態度

つくりだす喜びを味わい進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている姿を、観察や対話、ワークシートなどから捉えて評価します。「知識及び技能」を習得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要です。

2 学習評価の進め方について

1 題材の目標を作成する

- 以下を踏まえて作成
・学習指導要領の目標や内容・学習指導要領解説等
・児童の実態・前題材までの学習状況等

2 題材の評価規準を作成する

- 1、2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画。
- どのような評価の資料(生徒の反応やノート、ワークシート、作品等)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考慮したり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする。

3 「指導と評価の計画」を作成する

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、**生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。**

授業を行う

4 観点ごとに総括する

- 集めた評価の資料や、それに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A、B、C)を行う。

3 指導と評価の例

事例 第3学年「絵や立体、工作」「鑑賞」

題材名 「のこぎりザクザク生まれる形」(参考資料 p.54)

題材の目標設定のPOINT

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は「内容」を参考にし、「学びに向かう人間性等」は、学年の目標(3)を参考にします。題材に即してどのような内容が当てはまるのか書き換えたり削除したりします。

□題材の目標

- 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じが分かる。
 - 木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。(「A表現」(2)イ)
- 木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
 - 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。(「A表現」(1)イ)
 - 形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもつ。(「B鑑賞」(1)ア)
 - 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。(「B鑑賞」(1)イ)
- 進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

□題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じが分かっている。</p> <p>技 木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</p>	<p>発 形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</p> <p>鑑 形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>態 つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p>

題材の評価基準の設定のPOINT

具体的な活動を踏まえ言葉を省略や変更したりしているなどしている。(下線部は変更箇所)。

□指導と評価の計画

時	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法等		
		知・技	思	態
1 2	のこぎりの扱い方を知り、木をいろいろな長さや形に切る。 のこぎりを適切に扱う。	技能 ○ 【活動の様子】	発想や構想 ○	○
3 4	切った木(木片)を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。	○ 【活動の様子・対話・制作途中の作品】	○ 【活動の様子・対話・制作途中の作品】	○ 【活動の様子・対話・作品・ワークシート】
5	さらに木を切って組み合わせるなどしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。	○ 【活動の様子・対話・制作途中の作品】	鑑賞 ○	○
6	自分たちの作品を見て、感じ取ったり考えたりしたことを友人と話し合いながら、自分の見方や感じ方を広げる。	○ 【活動の様子・対話・制作途中の作品】	○ 【活動の様子・対話・作品・ワークシート】	○

○ 指導に生かす評価

生徒の学習の実現状況を見取り、個に応じた支援を行うなど、教師の指導の改善につなげるためにしています。

◎ 記録に残す評価

題材の観点別学習状況の評価の総括に用います。全員の学習状況を把握し記録に残します。

作品からの評価について

作品を評価の資料として活用する場合も、評価の観点と照らし合わせて評価することが大切です。作品と活動の過程での評価と照らし合わせることで、評価の妥当性や信頼性を高めることになります。また、完成した作品を見直すことで、活動の様子や対話などで捉えたことを確かめたり、表現の変化や、そこで育まれた資質・能力を把握したりすることができます。